



4月に実施した全国及び岡山県学力・学習状況調査を分析し、本校の各学年の傾向が次のようになりました。これらの課題を踏まえて、引き続き授業改善に努め、本校児童の学力向上を図っていきたいと考えています。

【各学年の傾向】

＜記号＞ 全国・県平均と比べ ○…よくできている ▲…もう少し

	国語	算数
3年生	○話し手が知らせたいことを落とさないように聞く。 ○文章を読んで感じたことを共有する。 ▲情報と情報との関係について理解し、語と語や文と文との続き方に注意して、文章を書くことが苦手。 ▲場面の様子や登場人物の気持ちなど、内容の大体を捉えることが苦手。	○2の段の九九ができる。 ○九九表から、乗法の交換法則が成り立つことを理解する。 ▲減法逆の加法の文章問題を表した図の構造を捉えることが苦手。 ▲方眼に正方形をかくことが苦手。
4年生	○話し手が伝えたいことの中心を捉えている。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点や相違点に着目している。 ▲中心となる語や文を見付けて要約することが苦手。 ▲自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことが苦手。	○数の相対的な大きさについて理解している。 ○あまりのある除法の商とあまりを基に、あまりの処理をして、正しい答えを求めている。 ▲分子が1の分数が何個で1になるかを理解することが苦手。 ▲整数一小数第一位の計算をすることが苦手。
5年生	○第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいます。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている。 ▲連用修飾語について理解することが苦手。 ▲叙述を基に段落相互の関係を捉えることが苦手。	○帯分数一真分数＝真分数（繰り上がり有り）の同分母分数の計算ができる。 ○小数を10倍した数を求めることができる。 ▲伴って変わる2つの数量関係を式に表すことが苦手。 ▲伴って変わる2つの数量の関係を式に表して、その式を使って一方の値からもう一方の値を求める方法を説明することが苦手。
児童 質問 紙	○将来の夢や目標をもっている。 ▲家で自分で計画を立てて、勉強をすることが苦手。 ▲自分でやると決めたことは、やり遂げようとするのが苦手。	○学校に行く日には、しっかり睡眠をとっている。
6年生	○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができている。 ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。 ▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが苦手。 ▲必要なことを質問しながら聞き話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることが苦手。	○示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。 ○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できている。 ▲計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考慮し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することが苦手。 ▲速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することが苦手。
児童 質問 紙	○朝食を毎日食べている。 ○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。 ○問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えている。 他 （平均より10ポイント以上） ▲人が困っているときは、進んで助けている。	○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 ▲新聞を読んでいる。

（注） ○と▲の項目は、各学年の上位2項目を記載しています。

※ 学年によって多少のばらつきはありましたが、学校全体としては、ほぼ全国・県平均でした。ご家庭でも、先日配布した個人票を参考にされ、お子様の得意なところ、苦手なところをしっかりとご確認いただき、今後の学習や生活に生かしてください。よろしくお願いします。

【今城小での取組】

《今城小学校 学校教育目標》

『自ら学び 心豊かに たくましく 生きる 今城っ子』の育成
～輝く瞳の今城っ子をめざして～

《指導の重点》

1 確かな学力の育成

2 豊かな心の育成

3 健やかな体の育成

この調査で得た傾向を踏まえ、今城小学校の指導の重点に照らし合わせ今後の取組をまとめました。

1 確かな学力の育成 (①授業)

＜授業改善；教科全般＞ … 2つの重点をポイントにおき、授業改善を図っていく。

①「自分の考えを分かりやすく伝える（説明する）力の向上」

（具体的な姿）

- ・ 根拠（例；～だから）をもとに、筋道（例；まず・次に・最後に）を立てて、視覚資料（例；図・表・グラフなど）を指差しながら、説明できる姿を目指す。
- ・ 相手の立場に立って、説明できる姿を目指す。

②「対話を生み出す真の聴く力の向上」

（具体的な姿）

- ・ 相手の話を最後まで集中して聴くことができる姿を目指す。
（例；話している相手の方に向く。意図をもって聴き、納得できるときはうなずきながら など）
- ・ 相手の話が終わった後、「いいです。（拍手）」等の反応だけで終わるのではなく、相手の話（説明）に付け足しをしたり、よいところを指摘したり、質問したりできる姿を目指す。
→ 聞いた話を広げていく活動を取り入れるようにする。

2 豊かな心の育成

＜「他者の心情を想像し、理解して行動できる。」という目標＞ … 2つの重点をポイントにおき、取組を行う。

①「誰にでも気持ちよくあいさつをする。」

（具体的な姿）

- ・ 月に1回、火～金曜日にあいさつ運動を実施する。（各学年から代表2名・児童運営委員・自主活動等）
- ・ あいさつ表彰（毎月1回、全校朝の会にて。根拠を明確にして、全教職員で見えていく。）

②「児童が安心して過ごすことができる学級集団づくり・異学年交流」

（具体的な姿）

- ・ 様々な場面で価値付けと評価を行い、どの子も自己有用感を高めていくような取組や新たな人間関係が構築できる自主研修等を設けるなどして、教職員の指導力向上を図る。

3 健やかな体の育成

＜運動的分野＞ 新体力テストの結果を受け、課題のあった筋力や持久力に効果がある取組を楽しく行う。

- ・ 運動委員会主催の「全校おにごっこ・ドッジボール大会・長縄大会」等を実施していく。
- ・ 毎週月曜日のリズムジャンプ、握力チャレンジランキング、サーキットトレーニングの奨励。

＜基本的生活習慣の定着＞ アンケート結果をもとにして、家庭・地域を巻き込みながら実践していく。

- ・ 基本的生活習慣（早寝・早起き等）やメディアコントロールの取組を、家庭学習強化週間にあわせて、家庭と連携して、継続指導する。
- ・ ほけんだよりや学級通信等を活用して、治療率の向上を図る。
- ・ 身体測定時の指導とともに、保健学習の充実を図る。

※ ご家庭でも、家庭学習や基本的生活習慣など、学校と連携して取り組んでいきましょう。